

社会資本総合整備計画

ほそちくとしさいせいせいびけいかく
細地区都市再生整備計画

平成28年12月

おおいたけんおおいたし
大分県大分市

社会資本総合整備計画（社会資本整備総合交付金）

平成28年12月27日

計画の名称											細地区都市再生整備計画				重点配分対象の該当										
計画の期間											平成29年度～平成33年度（5年間）				交付対象				大分県 大分市						
計画の目標											<p>大目標：若者にも高齢者にも安心・安全な生活環境を整え、豊かなコミュニティを育む、健康・元気な細のまちづくり</p> <p>目標1：都市防災機能の強化や日常生活の利便性向上のための防災道路や公園・広場等の整備</p> <p>目標2：住民同士の交流を図るための合意形成活動の実践による地域コミュニティの強化</p>														
計画の成果目標（定量的指標）											<ul style="list-style-type: none"> 災害時等に避難困難な居住者数 防災のための地域コミュニティづくりへの参加者 運動、レクリエーション活動の参加者 														
定量的指標の定義及び算定式											定量的指標の現況値及び目標値											備考			
											当初現況値 (H29当初)			中間目標値 (H31末)			最終目標値 (H33末)								
災害時等に避難経路として通行可能な道路を利用して避難することが困難な居住者数											360人			335人			230人								
地元自治会を対象としたヒアリングによる、防災に関する活動への参加率											40%			50%			60%								
魅力あるまちづくりの推進による、健康増進のための運動やレクリエーション活動への参加者											100人/月			150人/月			200人/月								
全体事業費		合計 (A+B+C+D)		1398百万円		A		1398百万円		B		0百万円		C		0百万円		D		0百万円		効果促進事業費の割合 C/(A+B+C+D)		0%	
交付対象事業																									
A 基幹事業																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)		事業内容 (延長・面積等)		市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考						
											H29	H30	H31	H32	H33										
A-1	都市再生	一般	大分市	直接	大分市	細地区都市再生整備計画		道路事業 他 39.0ha		大分市						1,398	—	—							
											合計					1,398									
B 関連社会資本整備事業（該当なし）																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名		事業内容 (延長・面積等)		市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用便益比	個別施設計画 策定状況	備考						
											H29	H30	H31	H32	H33										
											合計					0									
C 効果促進事業																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名		事業内容		市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考								
											H29	H30	H31	H32	H33										
											合計					0									
番号	一体的に実施することにより期待される効果																		備考						
																				備考					
D 社会資本整備凹地陥地整備事業																									
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)		事業内容 (面積等)		市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考								
											H29	H30	H31	H32	H33										
											合計					0									
番号	一体的に実施することにより期待される効果																		備考						

交付金の執行状況

(単位:百万円)

	H29	H30	H31	H32	H33
配分額 (a)	145.5	73.5			
計画別流用 増△減額 (b)	0				
交付額 (c=a+b)	145.5				
前年度からの繰越額 (d)	13.2				
支払済額 (e)	63.7				
翌年度繰越額 (f)	95.0				
うち未契約繰越額 (g)	95.0				
不用額 (h = c+d-e-f)	0				
未契約繰越+不用率 (h = (g+h)/(c+d))	59.9%				
未契約繰越+不用率が10%を超えている 場合その理由	用地買収及び建物等補償交の涉に不測の日数を要したため				

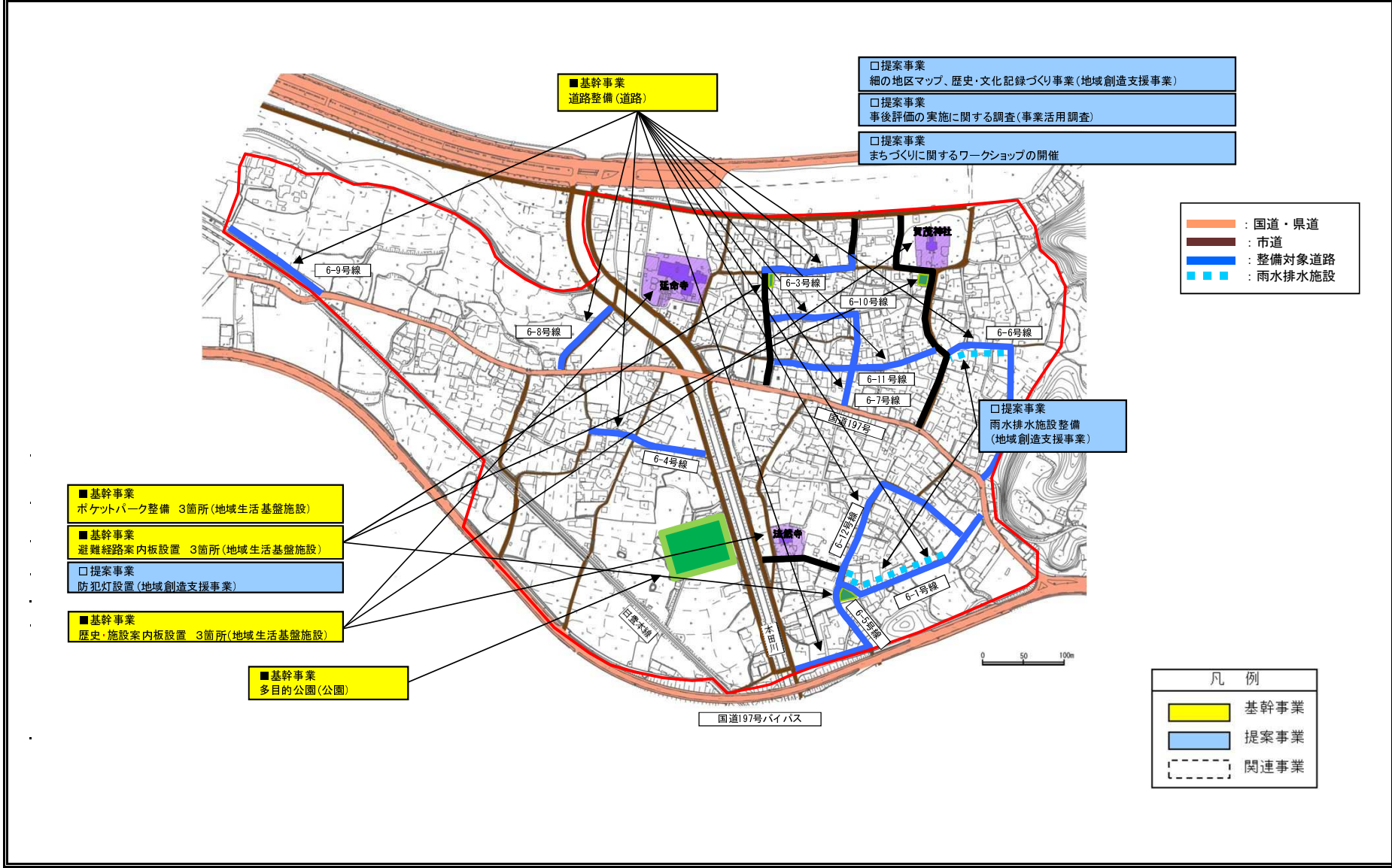
※ 平成29年度以降の各年度の決算額を記載。

※ 決算額は百万円単位とし、十万円未満はすべて切り捨て

※ h(%)については、小数第二位を四捨五入

参考図面（社会資本整備総合交付金）

計画の名称	細地区都市再生整備計画		交付対象	大分県 大分市
計画の期間	平成29年度 ～ 平成33年度（5年間）			



都市再生整備計画

ほそ
細地区

おおいた おおいたし
大分県 大分市

平成29年 3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	大分県	市町村名	大分市	地区名	細地区	面積	39 ha
計画期間	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度	交付期間	平成 29 年度 ~ 平成 33 年度				

<p>目標</p> <p>大目標:若者にも高齢者にも安心・安全な生活環境を整え、豊かなコミュニティを育む、健康・元気な細のまちづくり 目標1:都市防災機能の強化や日常生活の利便性向上のための防災道路や公園・広場等の整備 目標2:住民同士の交流を図るための合意形成活動の実践による地域コミュニティの強化</p>
<p>目標設定の根拠</p> <p>まちづくりの経緯及び現況</p> <p>[細地区の位置づけ] ・大分市細地区は、別府湾南岸の臨海工業地に沿って東西にのびる市街地の東端に位置している。かつては、別府湾での漁業及び本田川沿いに開けた農地での農業を営む農漁業集落として形成されたが、海岸部の工業用地め立てに伴う漁業の衰退などを通して、現在は約300戸(人口651人)を擁する住宅市街地となっている。 [まちづくりの経緯] ・大分市では、別府湾沿いに展開する臨海工業地帯の背後地において、土地区画整理事業などにより良好な市街地形成を進めてきた。細地区西側に隣接する坂ノ市地区においても、土地区画整理事業により道路網や公園などが整備されている。 ・本地区は、日豊本線坂ノ市駅より東方2kmに位置し、現在のところ典型的な地方集落の様相を呈しており、既存住宅において生活基盤施設の整備が立ち遅れていることから、安全快適な居住環境とは言えない状態である。 ・このことから地元より土地区画整理事業の陳情が提出されたが、市の財政事情、地元負担を考慮し、住環境整備事業として各種公共施設の整備改善をおこない、良好な市街地の形成を目指している。 [細地区の現況] ・細地区では、この10年間に35人の人口減少(総人口の約5%の減少率)があり引き続き減少傾向が続いている。ただし、世帯数の増減はほとんど無く、各世帯内での若年世代の地区外流出が人口減少を引き起こしており、結果として高齢化が進み地区内での高齢者比率は約4割に達している。</p> <p>課題</p> <p>本地区における若年世代の流出の原因は、農漁業の衰退などによる地元での雇用環境の不備が主因であるが、道路網等の都市基盤未整備による自動車利用の不便などが、若年世代の流出に拍車をかけている状況にある。また、道路網の未整備による災害時の避難行動の制約など防災面での課題も抱えており、生垣や祭りなどの地区固有の資源を活かしながら生活環境の整備を進め、若年世代の定着と高齢者も含めた地区住民の日常生活の活性化を図ることが強く求められている。このような中で本地区における課題としては以下が挙げられる。 ○防災を考慮した道路網の整備(地区内において、既存の道路を活用した消防活動や避難行動の円滑化を促す道路整備。) ○排水不良区の解消(排水不良区を主体とする雨水の排水対策。) ○地区コミュニティ活動の継続(生きがい醸成につながる、各種コミュニティ活動の継続や新たな活動おこし。) ○公園・広場等の整備(地区内における一定規模の公園等の整備。) ○地域資源の活用(地区の歴史性を象徴する神社・寺院など、地区の歴史の伝承とその活用。)</p> <p>将来ビジョン(中長期)</p> <p>・住環境整備に関わる多面的な取り組みを通して、防災・防犯・交通事故等の危険が少なく安全・安心、かつ地区のコミュニティが確保され多様な世代が生き活きと暮らす細地区を目指していく。 ・「大分市都市計画マスタープラン」においては、「市街地の整備方針」の項において、“細地区等の密集市街地や狭隘道路地区等において、安全・安心な市街地整備改善を図るため、都市施設の整備状況や住民の意向等を踏まえながら、住環境整備事業等を推進します”と位置づけられている。また、地区別構想においても、“細地区では、生活道路の改善などによる計画的な住環境の整備を推進します。”と位置づけられている。</p>

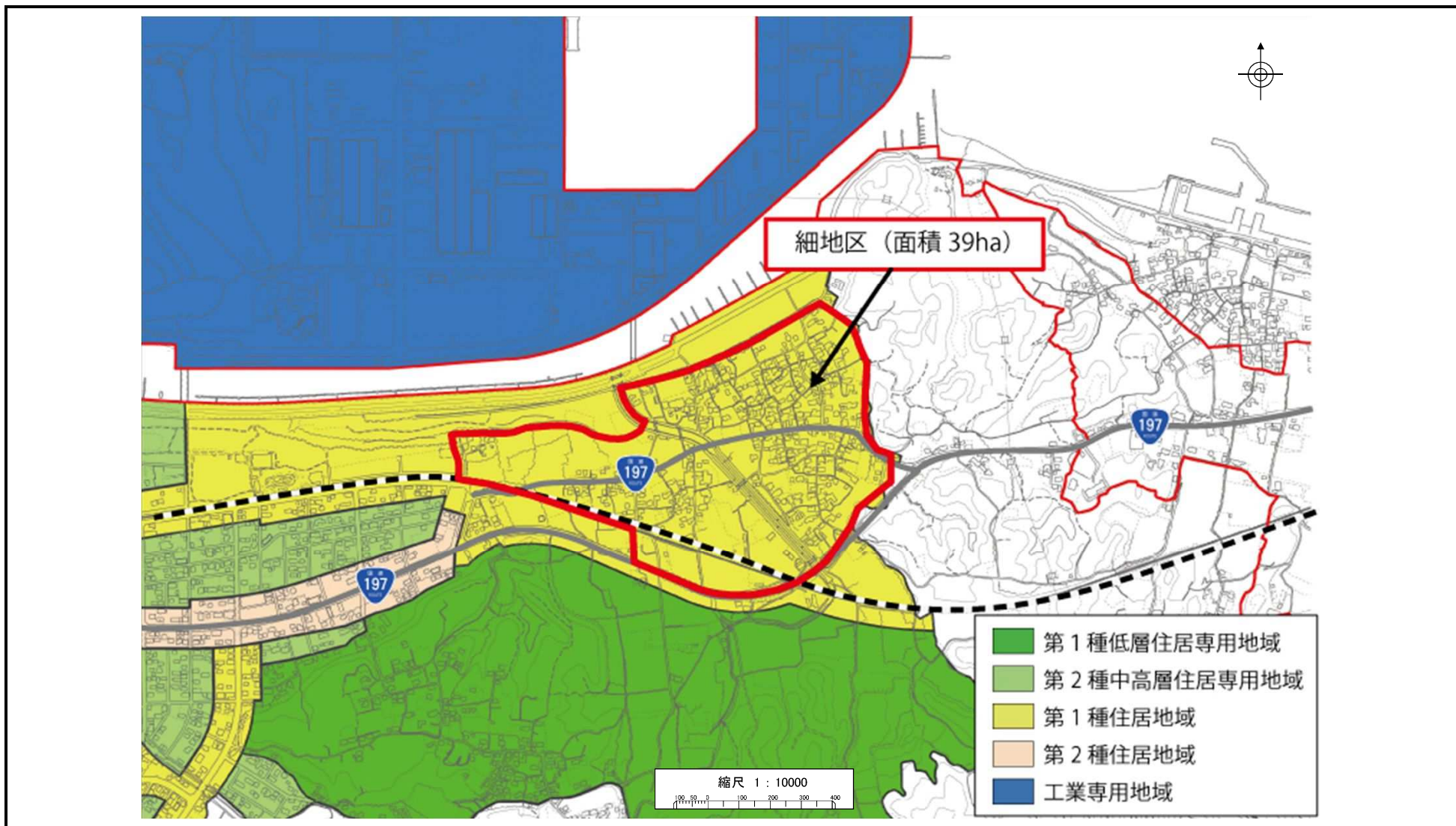
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
災害時等に避難困難な居住者数	人	災害時等に避難経路として通行可能な道路を利用して避難することが困難な居住者数	目標①の指標として用いる。防災道路を整備し、災害時における避難誘導の改善等による防災性ならびに日常生活での交通アクセスや治安維持の改善等による利便性を向上させる。避難が困難な居住者数の減少をめざすため、防災道路を整備するとともに、住民同士の意思疎通を図りコミュニティを醸成するための合意形成活動を実施するものとする。平成28年度には約360人(58%)であった避難困難な居住者数を事業最終年度には約230人(37%)に減少することを目標とする。	360人	H28年度	230人	H33年度
地区防災活動への参加率	%	地元自治会を対象としたヒアリングによる、防災に関する活動への参加者	目標①及び②の指標として用いる。防災機能を備えた多目的公園や広場を整備するとともに、ワークショップ等を通じ防災に関する意識を醸成することで、防災活動への参加者数を向上させる。地区住民で構成される自主防災組織が行う避難訓練への参加者数について自治会へのヒアリングを行い、平成28年度には地区内住民の40%であったものを事業最終年度には60%に増やすことを目標とする。	40%	H28年度	60%	H33年度
運動、レクリエーション活動の参加者	人/月	魅力あるまちづくりの推進による、健康増進のための運動やレクリエーション活動への参加者	目標②の指標として用いる。多目的公園及びポケットパークを整備し、地区住民の高齢化に対する健康増進活動を行い、日常的に気軽に寄りあえ、多様な世代による交流の場を設けることで、住民相互のコミュニティ意識を拡大させ参加者を向上させる。地区住民のレクリエーション等の活動への参加者数について自治会へのヒアリングを行い、平成28年度には100人/月であったものを事業最終年度には200人/月に増やすことを目標とする。	100人/月	H28年度	200人/月	H33年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1:都市防災機能の強化や日常生活の利便性向上のための防災道路や公園・広場等の整備</p> <p>地区内の道路網は旧来のままで残されており、狭い幅員と屈曲した形状で自動車の乗り入れが困難な道路が多く存在する。このため、火災発生時の消防活動において支障を来す恐れがあると共に、児童や高齢者のための歩きやすい歩行空間の確保、バス停・駅などに向かう公共交通機関へのアクセスの改善や雨天時等での排水不良区の発生の改善等が求められている。</p> <p>このような問題の解決に向けて、地区内での骨格となる生活道路の拡幅整備を進めるとともに、これに伴う排水施設の整備を行う。</p> <p>また、大規模地震発生時の津波被害防止のために、多目的公園やポケットパークの整備による一時避難場所を確保すると共に、避難経路案内板設置を実施することによる避難判断基準及び生活道路の拡幅整備による避難経路の確保により、地区住民への適切な誘導等、災害対策の強化を図る。</p> <p>さらに、夜間の地区内道路は狭いうえに暗く、歩行者などの通行に支障があることから、防犯灯を設置し、交通安全及び防犯性、災害時の安全対策の向上を進めていく。これらの対策により、地区住民が便利・安全・安心のまちづくりを推進していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■道路整備6-1号線外10路線(基幹事業/道路) ■多目的公園(基幹事業/公園) ■避難経路案内板設置 3箇所(基幹事業/地域生活基幹施設) □防犯灯設置事業 3箇所(提案事業/地域創造支援事業) □雨水排水施設整備(提案事業/地域創造支援事業) □事業評価の実施に関する調査(提案事業/事業活用調査)
<p>整備方針2:住民同士の交流を図るための合意形成活動の実践による地域コミュニティの強化</p> <p>集落としての長い歴史を持つ細地区は、加茂神社の祭礼が季節毎に行われ、また農産物品評会など地域の産業に直結した行事が毎年行われている。これらの催しは、住民によるコミュニティ意識の醸成や地域文化の継承に大きく寄与しているが、実施場所としての神社や公民館などに制約がある事から、気軽に集まれる憩いの空間の確保が必要となっている。また、地区住民の高齢化に付随して、多くの人が健康な生活を維持していくために、運動やレクリエーション活動等が行える場所の確保と共に、起こり得る震災に備えるため避難場所・ルートの確保等、その対応が求められている。</p> <p>このような問題の解決に向けて、多目的公園及びポケットパークの整備を進め、地区住民が日常生活において気軽に寄りあって憩える場、多様な世代による交流の場として、住民相互の交流機会の拡大を進めていく。</p> <p>また、本地区は、土地区画整理事業が実施されなかったことで、大分市内でも歴史的な集落形態が残された数少ない集落の一つとなっている。しかしながら、地区固有の歴史的な価値を有することでは他の地区と比べて遜色はないが、地区の高齢化による貴重な歴史の記録が少しずつ失われようとしている状況にある。そのため、かつての半農半漁村としての記録や地区内に点在する墓地、地蔵の由来、さらには地区の自然素材を活用した石垣や生垣の状況など、細地区の歴史・文化を地域の大事な資源として記録・記憶し、地区住民へ配信することにより、地区の歴史・文化の継承を図る。</p> <p>このようなことから、大規模災害に備えるための地域コミュニティの醸成や運動・レクリエーション活動を住民相互で楽しむ活動、地区の歴史・文化を後世に残すための地域交流を図るための合意形成活動を展開し、ふるさとの資源を活かしつつ細らしさを継承した、地域住民が自らの地域に誇りをもっていけるよう、活き活き・にぎわいのあるまちづくりを推進していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■多目的公園(基幹事業/公園) ■ポケットパーク整備事業 3箇所(基幹事業/地域生活基盤施設) ■歴史・施設案内板設置 3箇所(基幹事業/地域生活基盤施設) ■避難経路案内板設置 3箇所(基幹事業/地域生活基幹施設) □細の地区マップ、歴史・文化記録づくり事業(提案事業/地域創造支援事業) □事業評価の実施に関する調査(提案事業/事業活用調査) □まちづくりに関するワークショップの開催(提案事業/まちづくり活動推進事業)
<p>その他</p>	

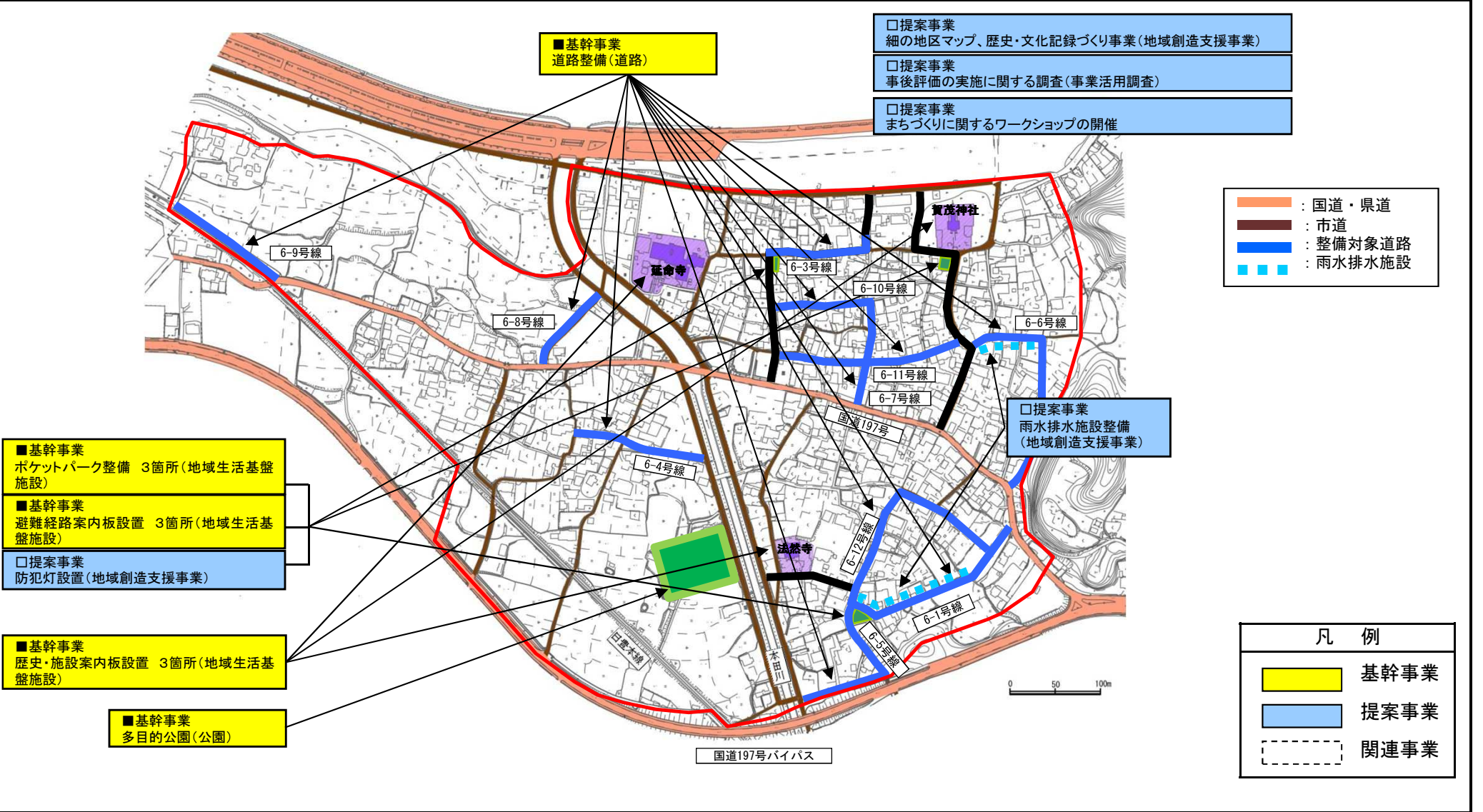
都市再生整備計画の区域

細地区(大分県大分市)	面積 39 ha	区域 大字東上野字江川、字大藤、大字細字賀茂田、字賀茂田屋敷、字大藤屋敷、字釜原、字粟田、字才楽、字濱田、字濱屋敷、字河原田、字藪ノ平、字南屋敷、字赤迫、字南田
-------------	-------------	---



細地区(大分県大分市) 整備方針概要図

目標	若者にも高齢者にも安心・安全な生活環境を整え、豊かなコミュニティを育む、健康・元氣な細のまちづくり	代表的な指標	災害時等に避難困難な居住者数 (人)	360人 (平成28年度) → 230人 (平成33年度)
		地区防災活動への参加者 (%)	40% (平成28年度) → 60% (平成33年度)	
		運動、レクリエーション活動の参加者 (人/月)	100人/月 (平成28年度) → 200人/月 (平成33年度)	



■ 基幹事業
道路整備(道路)

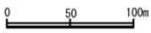
- 提案事業
細の地区マップ、歴史・文化記録づくり事業(地域創造支援事業)
- 提案事業
事後評価の実施に関する調査(事業活用調査)
- 提案事業
まちづくりに関するワークショップの開催

- : 国道・県道
- : 市道
- : 整備対象道路
- - - : 雨水排水施設

- 基幹事業
ポケットパーク整備 3箇所(地域生活基盤施設)
- 基幹事業
避難経路案内板設置 3箇所(地域生活基盤施設)
- 提案事業
防犯灯設置(地域創造支援事業)

■ 基幹事業
歴史・施設案内板設置 3箇所(地域生活基盤施設)

■ 基幹事業
多目的公園(公園)



- 凡 例
- 基幹事業
 - 提案事業
 - - - 関連事業

国道197号バイパス

社会資本整備総合交付金チェックシート

(都市再生整備計画事業等タイプ)

計画の名称: 細地区都市再生整備計画 事業主体名: 大分市

チェック欄

I. 目標の妥当性	
①都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	<input type="radio"/>
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
②地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	<input type="radio"/>
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	<input type="radio"/>
II. 計画の効果・効率性	
③目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	<input type="radio"/>
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	<input type="radio"/>
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	<input type="radio"/>
④事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	<input type="radio"/>
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	<input type="radio"/>
III. 計画の実現可能性	
⑤地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	<input type="radio"/>
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	<input type="radio"/>
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	<input type="radio"/>
⑥円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	<input type="radio"/>
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	<input type="radio"/>
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	<input type="radio"/>